

平成 29 年度

施 政 方 針

平成 29 年 2 月

八 幡 市 長 堀 口 文 昭

(はじめに)

本日ここに、平成29年八幡市議会第1回定例会の冒頭にあたり、施政方針を申し上げる機会をいただきありがとうございます。

昨年2月、2期目の市政運営をスタートさせていただき、早1年が過ぎ去ろうとしています。市民協働を基本に、公約実現に向けたまちづくりをさらに進めていかなければならないと意を新にしたところでございます。

さて、平成29年度は、市制施行40年を迎えます。未来を生きる世代が安心して暮らせるよう、今を生きる私たち世代が責任を全うし、これまでの実りを振り返り、それを活かした新たな一歩のスタートの年だと考えています。人口減少時代の到来により歳入の先細りや社会保障関係経費の増加が見込まれます。また、国の財政状況も厳しく、地方自治体の財源確保が難しくなっています。立ちはだかる「壁」に真正面に向き合いながら「足腰の強い行財政構造を確立」し、持続可能な八幡市運営を行っていかねばならないと考えています。

国では、2020年に向けた経済成長のエンジンとしてアベノミクス「新3本の矢」が打ち出され、様々な施策展開が図られているところです。

本市におきましては、第4次八幡市総合計画の総括を行い、将来の八幡市に思いを馳せながら次期総合計画の策定に取り組んでまいります。また、平成28年2月に策定いたしました「八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿って、地方創生の深化と地域の活性化に向けた取組を着実に推進することも重要であります。加えて、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年問題への対応につきましても「まちづくり政策」の中核と捉え、スマートウェルネスシティ「健幸都市の創生」の取組を進めることも重要な視点と考えています。

人口減少、少子高齢化、地方分権の本格的な到来により、本市を取り巻く環境は大きく変化してきています。京都府と力を合わせながら、今なすべきことに集中し、事業を選択しながら、創意工夫と努力を惜しまず、八幡市の未来を切り拓いてまいります。

それでは、平成29年度の市政運営の基本的な方針等につきまして、6つの分野からみたまちづくりについて、ご説明を申し上げます。

一つには、子どもが輝く未来のまちづくりです。

八幡の未来は子どもたちにかかっています。

「子育ての八幡市」として、これまで子育て支援や教育環境の整備など、様々な施策により、妊娠期から子育てまでの一貫したサポートを行ってまいりました。平成29年度では、平成28年9月に制定した「八幡市子ども条例」の理念を踏まえ施策を充実してまいります。

少子高齢化、核家族化が進行する中で、産前・産後において家事や子育てを行うことが難しい家庭をサポートするため「産前・産後ヘルパー」を派遣することとしております。また、保護者が子育てに不安を感じることがないように親同士が相談や情報交換を行うことができる地域の子育てサークルの活動に支援をするとともに、新たに本市独自の乳幼児発達クリニックを実施することとしております。

就学前施設の今後のあり方につきましては、現在「子ども・子育て会議」で検討を行っていただいているところであります。平成29年度中にいただく答申を踏まえ、今後とも待機児童が生じないように、就学前施設の再編と教育・保育内容の充実に取り組みすることとしております。

児童の発達支援につきましては、市内では福祉センター内の「親と子の育ちあい広場『わくわく』」の1箇所だけで実施していましたが、平成29年4月に新たに児童発達支援事業所が開設され、就学前の「発達が気になる子ども」の早期療育や発達支援を行い、不安の解消に努めることとしております。

放課後児童の健全育成につきましては、「八幡市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育との連続性を重視し、保護者の就労実態等に合わせて、開設時間を拡大するとともに、児童支援員を増員し、運営体制の強化を図ることとしております。

スタディサポート事業につきましては、これまでの試行を踏まえ、市内全域の低所得者世帯の中学生を対象とし、2つの会場で実施する内容に改めることとしております。

「いじめ」の問題につきましては、「八幡市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見、早期対応に努めることとしております。

平成 25 年八幡市議会第 4 回定例会において請願が採択されました中学校給食につきましては、平成 29 年 5 月から全中学校で実施することとしております。

市制施行 40 年を記念して、淀川三川ふれあい交流事業背割堤七夕まつりのオープニングにおきまして、友好都市マイラン村の子どもたちと本市の子どもたちがインターネットで会談をする“スカイプ交流事業”を実施し、交流を深めることとしております。

二つには、「健康」で「幸せ」を感じる「健幸」のまちづくりです。

我が国における高齢化は世界に例をみないほどの速さで進展していると言われております。本市におきましても、人口の 3 割近くが 65 歳以上となっており、この比率は今後も高まる傾向にあります。高齢化の進行は、働き手の減少、医療・社会保障関係経費の増加など、行財政運営に様々な問題をもたらす可能性があります。一方で、生涯にわたって働き、学び、運動し、いきいきとした生活を送ることが、「幸せ」な人生につながります。また、それは、本市にとって大きな活力となります。このことから、市民の皆様の健康づくりをさらに進めることを目的に、「やわたスマートウェルネスシティ構想」を軸にした計画を策定し、健幸アンバサダー（伝道師）の養成、ウォーキングの推進など、市民の皆様や関係機関と協働しながら「健幸」都市を創生してまいります。

市民の皆様の健康寿命の延伸を目指し、引き続き、各種健診、がん検診などの受診率を向上させ、異常の早期発見に努めることとしております。

介護保険につきましては、介護予防をはじめ、制度の円滑な実施と堅実な運営に向け、高齢者健康福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画を策定することとし、介護予防・日常生活支援総合事業への移行など、引き続き地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を行うこととしております。

国民健康保険につきましては、平成 28 年度の保険給付費の見込みをもとに、平成 29 年度を推計して保険料を算定しており、その結果 1.34 パーセント程度保険料を引き下げることとしました。

三つには、文化と暮らしのまちづくりです。

平成 29 年度は、市制施行 40 年を迎える年であります。そして、京都府、山城地域 12 市町村と連携した取組「お茶の京都」のターゲットイヤーでもあります。

11 月 1 日に開催を予定しております市制施行 40 周年記念式典をはじめ、多くの関連記念行事や、写真に特化したソーシャルネットワーキングサービスのインスタグラムを活用して「八幡の魅力」などを投稿していただくキャンペーンなどを企画し、幅広い年代に本市の魅力と市制施行 40 年を発信することとしております。

「お茶の京都」ターゲットイヤーとしては、「お茶の京都博」を行うこととしております。4 月 1 日、2 日には「お茶の京都博」のキックオフイベント「さくら茶会」が三川合流域「背割堤」で開催されます。このイベントを皮切りにターゲットイヤーに合わせ、松花堂、四季彩館での茶会、茶香服や、石清水八幡宮を舞台にジャズを聴きながらお茶を楽しむ「CHAZZ」などのイベントを行うこととしております。また、中学校におきまして「八幡のお茶に関する学習」や「おいしいお茶の淹れ方」など、お茶の体験事業も実施することとしております。

八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」につきましては、「観幸／出逢いのまち やわた」を目指し、本市の豊かな自然・歴史・文化資源を活用した取組を進めることとしております。また、八幡市の観光資源の発信と誘客を図ることを目的に、石清水八幡宮への道路案内標識の設置、歴史と文化と自然が織りなす出逢いの物語に沿った観光ルートの設定、物語のビジュアル化やモニターツアーなど、ものがたり観光を進めることとしております。

日本三大随筆の一つ「徒然草」に石清水八幡宮が舞台となる「段」があることはご存じのとおりです。これに因んで、「(仮称) 八幡市徒然草文学賞」を創設し、本市から優れた文化を全国に発信することとしております。

本市を代表する歴史・文化資源の一つである名勝松花堂及び書院庭園につきましては、今後の保存・活用・改修に向け、計画策定に取り組むこととしております。

四つには、互いに支えあい共生できるまちづくりです。

地域コミュニティは市民自治の基礎です。しかしながら、個人の生活様式や価値観の多様化、また、核家族化が進み、地域コミュニティが希薄化してきています。市民一人ひとりが、互いに人権を尊重し、理解しあいながら、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるとともに、支え、支えられる社会の実現を目指した取組を進めることとしております。

京都府、UR 都市機構、関西大学、本市で取組を進めています男山地域再生事業につきましては、これからの取組に資するため、地域住民の意識調査を実施することとしております。

男女がともに輝ける地域社会の構築とワーク・ライフ・バランスの確立に向け、各種講座や啓発事業などを展開することとしております。

地域のつながりを活かし、だれもが安心して幸せに暮らせるまちづくりを進めるため、社会福祉協議会と合同で地域福祉推進計画の策定に取り組むこととしております。

障がいのある方の高齢化や障がいの重度化、また、「親亡き後」を見据え、相談、体験の機会、緊急時の対応等の必要な機能を備えた地域生活支援拠点事業を拡充するとともに、「障がい者計画」並びに「(第5期)障がい福祉計画」に併せ、新たに「障がい児福祉計画」の策定に取り組むこととしております。

生活保護行政につきましては、引き続き、保護の適正実施に努めることとしております。また、生活困窮者自立支援につきましては、関係機関と連携を図りながら、自立を支援することとしております。

五つには、活力がありつづけるまちづくりです。

新名神高速道路が全面開通されることで、八幡市はこれまで以上に交通の要衝となります。税源涵養策の一つとなり得る、現在進めている市内関連幹線道路の整備と合わせ、機会を逸することなく地域の活力を支える産業の基盤づくりを進めてまいります。

現在、新名神高速道路城陽・八幡間、八幡・高槻間の整備が進められており、そのアクセス道路となる府道八幡インター線市道山手幹線以西区間につきましても、以東区間に引き続き、京都府と連携して早期開通を目指すこととしております。また、府道八幡田辺線国道1号以西区間整備につきましても併せて早期開通に向け、京都府と連携することとしております。

二階堂川口線バイパス事業につきましては、現在、用地交渉を進めながら、一部区間の工事に着手しております。野神線の歩道整備とともに、引き続き取り組むこととしております。

橋本南山線の延伸につきましては、平成29年3月末に府道京都守口線への接続が完了いたします。引き続き、橋本駅前周辺整備計画の具現化に向けた検討を行い、早期完成を目指すこととしております。

(仮称)八幡ジャンクション・インターチェンジ周辺で行われる土地区画整理事業につきましては、関係機関との連携を強化し、早期に完了されるよう取組を進めることとしております。また、新名神高速道路の開通に合わせ、本市の土地活用をさらに活性化させる観点から、「八幡市市街地整備計画」の策定に取り組むこととしております。

商工振興につきましては、これまでの振興施策に加え、小規模企業者や創業者が受けた融資に対して保証料や利子の一部を助成し、創業、経営の継続・再生及び発展を支援することとしております。

農業振興につきましては、これまでの地産地消の促進、地域農業の振興に加え、JA京都やましろが「さくらであい館」にて実施される農産物の直売につきまして運営経費の一部を助成することとしております。

六つには、安心して暮らせる安全で快適なまちづくりです。

自然災害の脅威から市民の皆様の生命と財産を守ることは市の責務であります。少子高齢化に伴う人口減少社会が進む中であっても、これまでの取組をさらに充実をさせていくとともに、重要な課題に的確に対応できる足腰の強い行財政構造を確立し、持続可能なまちづくりを目指し、将来のグランドデザインを描いてまいります。

未だ記憶に新しいと思いますが、平成 28 年 4 月の熊本地震では災害対応の拠点となる庁舎が被害により、使えなくなるという事態が発生しました。このことは、市民にとって、災害時においても庁舎が重要な拠点であることを明確にしたこととなります。これまで、本市では厳しい財政状況の中にあっても子どもたちの命を守るために、小・中学校などの耐震化にはいち早く取り組みましたが、耐震化が必要な庁舎は未実施です。国において平成 29 年度から平成 32 年度までの 4 年間限りの財政措置がなされたことから財源確保の視点からも庁舎整備を検討することとしております。

京都府主催の総合防災訓練が、平成 29 年度は八幡市で開催されることとなりました。本市におきましても、多くの機関に参加を呼びかけ、連携した災害対応訓練を行うこととしております。

災害復旧の迅速化、公共事業や土地取引の円滑化などに資するため、一筆ごとの土地の所有者、地番及び地目の調査、境界及び面積に関する測量を行い、正確な地籍簿・地籍図を作るために地籍調査を行うこととしております。

雨水排水対策につきましては、市民防災広場に市内 2 箇所目の雨水地下貯留施設の設置を行うこととしております。

生活道路における歩行者などの安全な通行を確保することを目的として、市内 5 箇所目のゾーン 30 の整備に取り組むこととしております。

ごみの減量化、資源化につきましては、リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用)の 3R を推進していくために、新たに携帯電話やデジタルカメラなどの使用済み小型家電の拠点回収に努めることとしております。

(むすびに)

以上、平成 29 年度の市政運営に当たりまして、私の基本的な方針を申し上げました。

世阿弥が「花鏡」で記しております、「是非の初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。」を胸に「一歩前」の姿勢で、市政の舵取りにあたってまいります。

議員の皆様の一層のご支援とご理解とご協力を心からお願いを申し上げまして、私の施政方針とさせていただきます。